

金剛寶戒寺便

<https://www.houkaiji.jp>

令和二年七月一日発行 第七十六号

檀信徒の皆さまこんにちは。気がつけば一年の半分が過ぎていました。本来であれば東京オリンピック・パラリンピックで盛り上がりつつある時期です。少しずつ日常が戻ってきただようにも感じていますが、個人的には高校野球の県予選と変則的な甲子園大会を楽しみにしています。

コロナウイルス感染の第二波、第三波を気にしながら手探りの生活が続いているのではないのでしょうか？パンデミックという聞きなれない言葉の元、様々な犠牲と共に、指導者の立場の不祥事なども明るみに出ました。諸外国と比べると人口当たりの死者数などを百分の一以下に抑えることが出来た現状を、今後の為にもどこかのタイミングで総括をする必要があるのではないかと感じていきます。

最近のお便りでは世論を若干批判的に書いてしまい、読みにくく感じられた方もいるかもしれません。一連の騒動を戦時中の様だと例える方も居られましたし、報道の偏りや一方通行に対して、余りにも反対意見が少なく感じたために、仏教者としての立ち位置から世間とは少し違った意見を書かせて頂いたつもりですが、基本的には一生懸命に頑張っている人たちを批判するのは好きではありません。その様な中で私が残念だったのは専門家

会議の議事録が残されていないとのニュースでした。

話は変わりますが緊急事態宣言中に「二高三高地」という日露戦争の映画を観ました。理由はコロナウイルスへの我々の対応が戦中のようにだと言われた戦争体験者の方々がいたのと、戦争へと突き進んでいく時代的背景に関心が有ったからです。古い戦争映画ですし、そこから客観的な事実を知り得ると思っております。ただ、今ある裕福な生活や自由は多くの先人たちの犠牲の上に有ること、乃木希典や伊藤博文、大山巖、明治天皇など歴史教科書の登場人物が実際に今の私たちの生活と繋がっている事を強く感じました。また、敵国のロシア文学を愛する理性的な主人公が戦況の中で殺戮者へと変貌していく戦争の狂気さもリアルに描かれており、経済的冷戦の様な今を戦争へと踏み込ませてはいけな

いとも強く感じました。
なぜ戦争へと踏み切って行ったか？これには多くの主張があり、その詮索をこの場でする事では無いと思います。しかしどの様な理由やデータから、今回のコロナウイルスへの対応に至ったのかは、しっかりと議事録として残しておくべきだったと思います。人の命だけでなく、生活や時間。今年にかけていた青春など多くの犠牲を払いました。実際に商売を閉めた方もいます。「いのちの重さに勝るものは無い」との考えは正論ですが、日常の生

活や経済、商売、青春もかけがえのない「いのちの一部」だと私は思います。政策に正解や「たられば」は無かったとしても、方針に至るまでの経緯を知りたかったですし、未来への課題として残しておくべきで有ったと強く思います。議事録により幅広い意見が出にくくなるというのは学級委員会レベルの話で、専門家と呼ばれる有識者であればこそ信念と勇気を持って記録を残して欲しかったと思います。その行間にこそ多くの財産が眠っているに違いないと考えるからです。

八月の行事のお知らせです。例年通り盆月の講習会は行いません。また新型コロナウイルスは空気感染よりも接触感染での拡散確立が高いとの報告も出ておりますので、非常に残念ではありますが、毎年八月二十一日に行っている千巻心経と供養盆踊りは中止と致します。代わりに法話の会などが出来ないか検討中です。

大掃除のご案内

八月一日(土曜日)あさ六時頃から本堂と境内の大掃除を一時間程度行います。都合のつく方のご協力をお願い致します。

特別定額給付金などの経済対策も重要ですが、子供や孫たちへの借金で有ることに間違いがありません。政党や候補者の票集めに利用されない様に、朝三暮四とならない様に気をつけたいものです。

合掌